

高野山・熊野の魅力発信をオンラインで継続

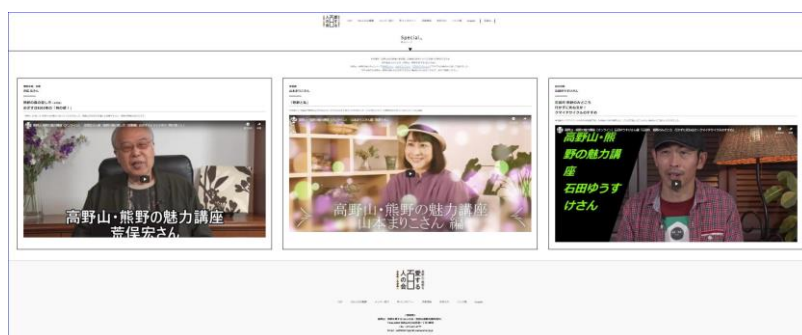
観光PRへのオンラインやデジタルの活用が加速している。和歌山県は世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』高野山・熊野エリアのafterコロナ時代の観光を見据えて、同エリアの魅力をまずは国内の人々に向けてオンラインで伝える試みを行っている。

「高野山・熊野を愛する100人の会特別講演『高野山・熊野の魅力講座』」(<https://koyasan-kumano100.jp/koza/index.html>)だ。「高野山・熊野を愛する100人の会」は、2019年7月に設立された。同エリアを「もっと多くの人々に知っていただく。また、この世界遺産を後世に受け継ぐための活動を推進するのが目的です」(和歌山県観光振興課)。首都圏や和歌山県内でエリアの魅力を伝えるイベントを行ってきたが、コロナ禍で通常のイベント開催が困難な状況に。「しかし、エリアの魅力や情報の発信など、コロナ収束後に観光に来てもらうためのアプローチを継続することは必要です。コロナの影響を受けにくいオンラインでの情報発信を選択しました」。

100人の会のメンバーの中から、博物学者で作家の荒俣 宏さん、写真家の山本まりこさん、旅行作家の石田ゆうすけさんに出演を依頼。高野山・熊野の魅力を伝える動画を収録し、今年9月29日から配信を行っている(来年3月末までの予定)。荒俣さんの講義動画は実際のシンポジウムさながらの基調講演風に、山本さんと石田さんは「写真の撮り方」や「熊野、和歌山の見方」を話すなど、視聴者がアクションを取りたくなるような内容にするなどコンテンツにも工夫を凝らす。また、100人の会ホームページの「匠インタビュー」コーナーでは、地元・和歌山で世界遺産の高野山・熊野の保全や継承活動を行う一般の人々を紹介する。

「知られざる高野山・熊野の魅力を知ってもらうことも大事ですし、このエリアで活動する一般の人々のリアルな姿を知ってもらうことで、もっと身近に感じていただくことも大切です」。まだまだ海外旅行に行きづらい環境下、ネットを通じて伝わる高野山・熊野にしかない風景や神秘的な空気感が旅行愛好者らの関心をさらに高めていくだろう。

産経新聞社大阪本社 メディア営業局企画委員



特別講演『高野山・熊野の魅力講座』
「高野山・熊野を愛する100人の会」ホームページで配信中